

[横浜市民ギャラリー]
 平成25年度業務報告及び収支決算
 [公益財団法人横浜市芸術文化振興財団]

- ※ 文中の事業欄において、
 ●：主催事業。○：共催事業
 を示します。
- ※ 文中の達成指標、達成状況欄において、
 □：定量的指標。■：定性的指標
 を示します。

1 施設の概要

施設名	横浜市民ギャラリー
所在地	横浜市中区山下町2番地 産業貿易センタービル1階
構造・規模	産業貿易センタービル1階のうち一部
敷地・延床面積	専有延床面積48.79㎡
開館日	昭和50年10月

2 指定管理者

団体名	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
所在地	横浜市中区山下町2番地 産業貿易センタービル1階
代表者	理事長 澄川 喜一
代表者設立年月日	平成3年7月10日
指定期間	平成23年4月1日から平成28年3月31日まで

3 指定管理に係る業務総括

(1) 基本的な方針の総括

2014（平成26）年秋口の新天地への移転・再オープンに向け、1964年開館からの約半世紀におよぶレガシーを受け継ぎつつ、新しい時代のニーズに応え地域に根差した新ギャラリー運営の基本方針を検討・策定しました。

- ・実際の運営に即した施設管理の検討
- ・貸館利用方法を十分な検討の上に策定し、十分な周知期間を設けて利用募集を開始
- ・新ギャラリーの施設のシンボルの一つであり事業の核となる所蔵品約1,300点の状態調査を行い、クリーニング作業および基本データを整え、新ギャラリー移転に備える
- ・システムの再構築（貸館利用予約システム、ギャラリーネットワークシステム、広報システム、ホームページ）

(2) 25年度の業務の方針及び達成目標の総括

① 全体業務の総括

2014年（平成26）年秋口の新ギャラリーへの移転・再オープンに向け、主に3つの面（①貸館運営およびそれに伴うシステム構築、②コレクションの状態改善、③広報ツールを整える）で準備を進めました。

1964年の開館から続いた運営方法や長く利用してきた諸団体との関係に配慮しつつ、より開かれた施設をめざし、今の時代にあった運営の基本方針を抜本的に見直し、システムを構築しました。

コレクションは横浜市が委託した専門業者とともに、全作品の状態を調査し、その調査結果をもとに、優先順位をつけて作品のクリーニングに着手しました（クリーニングはH26年度も引き続き行います）。

広報面でも抜本的な見直しを図りました。1つには、横浜におけるアートシーンを多角的に捉えるために、新たに情報誌「横浜画廊散歩」を創刊し、市内の展覧会情報を毎月紹介するとともに、表紙の扉に「今月の1点」としてコレクションを紹介する仕組みを作りました。次に、市民ギャラリーにふさわしいホームページを広範囲に研究し全面リニューアルしました。従来のホームページにあったアーカイブ情報に加え、新しい運営方法や利用に必要な情報がダウンロードできる仕掛けを作るとともに、紙媒体の情報誌の情報とともにより詳細な内容が取れるようにするなど、検索機能を強化しました。こうした工夫の結果、リニューアル後にはアクセス数が飛躍的に伸びるといふ結果となりました。

こうした新ギャラリーへの準備をさらにきめ細かく検討して具現化し、次年度の再オープンに繋がります。

4 業務の取組と達成指標についての達成状況

(1) 運営について

ア コレクション管理について

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
●未撮影作品(400点余)の撮影を実施	■新ギャラリー開館までに全作品の撮影の完了を目指し、所蔵品データの基礎を固めます	■未撮影作品の撮影 3/24～28の5日間で288点の撮影を終了しました。全作品を終了できなかったのは、クリーニング作業が当初の予定より日数が混み（3/19までクリーニング作業を実施。仮収蔵庫のため土日祝の作業はできない）、撮影日程が組めなかったからです
●データ化されていない情報の入力	■デジタルデータ化されていない情報を入力し、所蔵品データの基礎を固めます	■データ化されていない情報の入力 現時点で必要なデータ（画像データのキャプション付けと作品文字データとの付け合せ、全作品データの入力確認）はすべて終え整えました
●全作品の開陳による状態調査およびクリーニング	■年度前半で全作品の状態調査、後半でクリーニングを実施し、健全化に持っていきます（埃等の除	■状態調査とクリーニング 横浜市が委託した業者とともに、前期（4～9月）に

	去、消毒作業 など)	<p>全作品の状態調査を実施しました。後期（10～3月）に横浜市が指名業者と契約した308点の作品のクリーニングを終えました。</p> <p>残りは次年度（H26）に実施します（754点を仮収蔵庫でクリーニングし、それ以外の大型作品や痛みが激しいものは燻蒸を予定しています）</p>
--	------------	---

イ 情報誌の発行について

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
<p>●施設休館にともない、市民ギャラリーの情報発信紙である「アートヨコハマ」は休刊しますが、2010年度から作成している「ヨコハマ・ギャラリー・マップ」および2011年度から作成している「市内文化施設の展覧会情報」を発行します。</p> <p>「市内文化施設の展覧会情報」は、140近い民間画廊（ギャラリー）およびそこで発表する市民の創作・広報活動を応援することを目的に、民間画廊をはじめとする市内美術施設の最新の展覧会情報の提供を実施していきます。</p>	<p>□市内のギャラリー情報を網羅した「ヨコハマ・ギャラリー・マップ 2013」（15,000部）を発行します</p> <p>□年1回だけで基礎データの提供が中心の「ギャラリー・マップ」を補うべく、月ごとのギャラリーの運営情報「横浜市内の展覧会情報」を新年度より名称を変更して発行し、市内公共施設等に配布します（4,000部/月）</p> <p>■またこうした広報収集活動から得られる情報を元に民間画廊や利用する市民のニーズ・動向を分析し、美術振興のための連携を模索します</p> <p>□毎週1回更新情報をホームページに掲載し、最新情報の提供を心掛けていることをアピールし、ホームページでの情報提供・アクセス数の増加に繋がります</p>	<p>□「ヨコハマ・ギャラリー・マップ2013年度版」2013年6月25日、15,000部発行し、約1,100か所へ配布</p> <p>□従前から発行していた「横浜市内の展覧会情報」を見直し、新たに「横浜画廊散歩」として創刊し、市民の創造発表活動をサポートするとともに、公・民間問わず市民に公開し利用可としている展覧会施設の応援誌としての性格をアピールしました。創刊後の反響は大きく、配布部数が足りない・配布箇所を増やしてほしいという好反響を各所からいただき、こうした反響に予算の範囲内で最大限の発行部数・配布箇所を確保し、きめ細かく対応しました</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2013年5月号～2014年4月号までの12回 ・毎号4,000部（3月号のみ4,500部）発行 ・毎号約220か所（公共施設、美術施設、民間画廊等）に配布 <p>■市民ギャラリーの独自のネットワークである民間ギャラリーからの情報を活用し、情報誌の発行に加え、リニューアルしたホームページでの検索レベル（内容・範囲）を引き上げました。これは、“見せたい・貸したい画廊”と“見たい・発表したい市民”を結び付け、市民ギャラリーが情報ネットワークのコアとなり市内の創造発表活動の活性化の一助となっています。また、次年度に向け、Linked Open Dataのシステムを導入し、このシステムを関係各所へ浸透理解を図り、財団事務局が編集するサイト「ヨコハマ・アートナビ」とも結び付ける素地を整えました</p> <p>□毎週1回必ず更新をしました。さらに2/6に全面リニ</p>

		ューアルを実施し、アクセス数の飛躍的な伸びにつながりました
--	--	-------------------------------

ウ 市民・利用団体の対応について

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
<p>●市民が、親しみが湧き訪れたい施設となるよう新ギャラリーの情報だけでなく周辺情報も収集し情報提供に努めるとともに、市民からの広聴も確実に丁寧におこないます。</p> <p>●利用を希望する団体には、新ギャラリーの仕組み・利用方法を的確に伝え、利用申請につなげます。</p> <p>●市民ギャラリー休館中の代替え施設情報の提供をはじめ市民の創作および発表活動への支援に努めます。</p>	<p>■従来の利用者の関心を低下させない最新の情報提供、丁寧な相談受付</p> <p>□新しい利用者からの問い合わせを増やします(新規者からの問い合わせ・年間30件以上)</p> <p>■作品発表をしたい利用者と利用者を探している民間画廊とのマッチングなど利用者・施設双方のニーズにあった情報を提供したり、展覧会開催のための各種相談などに対応するなど、これまでの運営経験・実績を踏まえ、市民ギャラリーならではの美術活動への支援を図っていきます。</p>	<p>■閉館中でしたが可能な限りの情報発信・提供に努めました。一方で新ギャラリーの仕組みを横浜市とともに検討し、決定内容は逐次公開していきましました</p> <p>□既存の利用団体に配慮しつつ、新しい利用者からの問い合わせにも対応しました。とりわけ利用方法が抽選方式と発表された後(1/23以降)は、新規利用者からの問い合わせが増えました</p> <p>新規団体登録=9団体(H25年度登録162団体のうち)</p> <p>■情報誌「横浜画廊散歩」の発行は、従来以上に借りた市民と貸したい施設のマッチングが可能となり、「ヨコハマ・ギャラリー・マップ」との連携もあつて、美術施設のアピールや市民の発表活動の支援が可能となりました</p> <p>また、各所から寄せられる相談に随時対応しました。展示施設を探している市民のためには展示発表ができる美術施設の資料提供や展覧会備品の貸出などに対応し、市民ギャラリー閉館中の不備・不自由をかけないように努めました</p>

エ 新ギャラリーの貸館利用方法の構築について

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
<p>公平性・透明性を確保し、時代に則した貸館利用方法を策定します。</p> <p>●美術系施設の貸館利用の調査</p> <p>●横浜市民ギャラリーあざみ野との連携</p>	<p>■関内での利用状況の分析に加え、他施設を調査・研究し、新ギャラリーのよりよい貸館利用方法の構築に繋がります</p> <p>■市民ギャラリー同士として連携できるところを揃え、双方で情報提供できる</p>	<p>公平性・透明性を確保し時代に合った貸館利用方法を横浜市とともに多角的に検討し、策定しました。</p> <p>■関内での利用状況を分析し、各方面から頂いた意見、他施設(他府県の情報も)の貸館運営を調査・研究しました</p> <p>■横浜市民ギャラリーあざみ野の貸館運営、施設運営と比較検討し抽選方法の統一化を図りました。また次年度に向け、利用要綱の見直しを相互で行っています</p> <p>■貸館利用方法を策定し、冊子「ご利用の手引き(開館準備用)」を発行後、利用登録・相談の受付を平成26年2月3日から開始しました。</p>

●利用団体の事前相談	よう整えていきます ■利用にあたって事前相談を親切・丁寧に受け付けます	□利用登録受付（2/3～3/31） 162団体
------------	--	-------------------------

オ 利用の手引きの発行

[取組内容] 貸館利用方法を策定したものを市民に手に届く形で「利用の手引き」を発行し、新ギャラリーの利用につなげます。 ●新ギャラリーの存在を告知し利用につながる、内容・ビジュアル面を工夫した「利用の手引き」を発行します。	[達成指標] ■「利用の手引き」を発行し、広く周知します	[実施内容と達成状況] 貸館利用方法の策定と並行し、施設案内および利用方法を解説した冊子「ご利用の手引き」を発行し（平成26年1月22日）、各所へ配布しました ■新ギャラリーの施設情報・貸館運営方法を、市民にわかりやすく届けることを主眼に作成しました ・随所に図解（立体図・平面図・周辺図） ・交通アクセスをできるだけ詳細案内 ・これ一冊で基本情報が入手できる（図面を別添にせず組み込む、ネット環境に無い人への配慮）
---	---------------------------------	---

カ 新貸館利用システムの構築

[取組内容] ●新ギャラリーの貸館利用に向けて、貸館利用に必要な情報を調査検討・策定し、貸館利用システムを構築します。	[達成指標] ■施設概要・利用料金・利用時間・附帯設備・利用方法・申請必要書類を十分な検討の上決定し、誰もがわかりやすく・スピーディーな対応が可能で、可変要素にも対応可能な貸館利用システムを構築します	[実施内容と達成状況] ■従来施設・利用者への配慮、他施設の情報入手・分析、新ギャラリーでの料金体系を複数案で考え、附帯設備の有無等、あらゆる角度から検討し、シミュレーションを行い、利用する市民が不利にならないように料金・時間・利用方法・申請方法を検討しました。検討を重ね策定した運営方法を、紙面による書式及び貸館利用システムとして構築しました
--	---	---

(2) その他の計画

ア ホームページの改定について

[取組内容] ●新ギャラリーにあわせたホームページおよび発信方法の研究・改定 ●アクセス数の増加を見	[達成指標] ■情報コンテンツおよびデザインの抜本的な見直し ■45,000～50,000 にとどま	[実施内容と達成状況] ■日本だけでなく諸外国の美術館・アートサイト、他業種でも評判のサイトも研究し、市民ギャラリーに合うコンテンツを整理し、全面リニューアルを実施しました。なお、従来のHPにもあったアーカイブは50年の
--	--	---

<p>込めるホームページへの改編</p>	<p>っていたアクセス数の増加を目指し、広報の大きな柱となるホームページへの改編</p>	<p>歴史があり情報量が膨大なため、今年度以降も整理を続けます</p> <p>□リニューアル前も毎週1回必ず更新をしました。2/6に全面リニューアル後は、アクセス数の飛躍的な伸びにつながりました</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4～1月 トップ頁アクセス20,437、全頁アクセス177,706 (月平均：トップ頁2,044、全頁17,770) ・ 2, 3月 トップ頁アクセス6,624、全頁アクセス131,275 (月平均：トップ頁3,312、全頁65,637) (対比：トップ頁162%増、全頁370%増)
----------------------	--	---

イ 横浜市との連携協力について

<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 横浜市の要請にあった新ギャラリー開館に向け、横浜市との打合せを適宜行います。 ● 毎月のモニタリング ● 物品等の適正管理 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 必要事象については確実に打合せを行い、効率的・効果的に進め策定していきます ■ 業務進捗を双方把握するために毎月のモニタリングを実施します ■ 新施設での使用にむけ、適正に管理を行います 	<p>[実施内容と達成状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 横浜市と指定管理者と双方で調査・研究し、「利用の手引き」発行までの10か月間は、月平均2回以上打合せを行い、十分な協議を経て新ギャラリーの運営方法を策定しました ■ 毎月のモニタリングは確実に実施しました ただし、8月・10月・2月は実施せず、それぞれの翌月に2か月分合わせて実施 ■ 開館当初からの物品もさかのぼって調査し、H24年度版（H25年度に調査を実施）の物品管理簿をしました
---	---	--

ウ 収支について

<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 予算に照らし確実な執行を行います。 ● 入札・見積合わせの実施 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 予算に基づき計画的な執行を行います ■ 経費削減を常に心掛けます 	<p>[実施内容と達成状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 予算に基づき計画的な執行を行いました ■ 計画的に見積もり合わせ・入札を行い、着実に費用を削減することができました <p>「ホームページリニューアル」「XPサポート終了に伴うPCの全面入替」を入札により適正価格にて実施しました</p>
--	---	---

5 収支決算額について

収支決算書

(単位:円)

項目	予算額	決算額	差額	備考
収入				
指定管理料収入	41,700,000	41,700,000		
利用料金収入				
事業収入		320,000	▲320,000	広告料収入の増
その他収入	50,000	171,150	▲121,150	H24 年度購入した什器備品に不具合があり購入元に返却した。返却金は H25 年度での戻入収入
合計	41,750,000	42,191,150	▲441,150	

支出				
人件費	30,800,000	32,302,759	▲1,502,759	
管理費	1,200,000	1,248,043	▲48,043	仮事務所運営費の増
事業費	0	2,034,035	▲2,034,035	情報誌の発行、収蔵作品の撮影等
事務費	9,750,000	8,361,906	1,388,094	
合計	41,750,000	43,946,743	▲2,196,743	

収支計	0	▲1,755,593	1,755,593	
-----	---	------------	-----------	--